

アブストラクト書式のサンプル

0101XXX3 凹凸大学 *学会太郎 GAKKAI Tarou
0209XXX5 凸凹企画 中部花子 NAKABE Hanako

1. はじめに

このファイルは、2006年OR学会秋季研究発表会で発表を希望される方が $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X} 2_{\epsilon}$ [1, 2]を用いてアブストラクトを執筆する際の実例です。このファイルとスタイルファイル(orsabs.sty)をお使いいただければ、余白等の設定をしていただくなくても、すでに設定済みです。 $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X} 2_{\epsilon}$ をご使用になる際は、出来るだけこのファイルを利用して原稿を作成することをお勧めいたします。原稿の構成については特に決まりはありませんので、自由な形式で原稿作成していただいて結構です。ただし、アブストラクト集作成上問題が発生する可能性がありますので、余白の変更は避けてください。各ページには、ヘッダを差し込む都合上、特に上マージンの変更は厳禁です。

2. 発表者の方へ

日本オペレーションズ・リサーチ学会2006年秋季研究発表会に発表を希望される方は、以下の手順に従ってアブストラクトの原稿を作成してください。

Acrobat[®]Distiller[®]の初期設定はレターサイズになっています。A4サイズのPDFを作成する場合、初期設定のままではできませんのでPDFの作成方法をご参照下さい。

3. アブストラクトの書き方

アブストラクト集は著者の原稿をそのままフォトコピーして、B5版にオフセット印刷します。形式が不備の場合は印刷ができない場合がございますので、アブストラクト作成の際には以下の注意書きをお読みいただくよう、お願いいたします。

- アブストラクト原稿は発表1件につき2ページです。A4版用紙で印刷してください。各ページの余白は上下30mm、左右20mmとしてください。余白部分には統一したヘッダーとして書名、フッターとしてページ番号が挿入されますので、必ず、空白のままにしておいてください。縮小印刷されますので、フォ

ントサイズは(本文、図表とも)9pt.以上でお願いします。アブストラクト集はモノクロ印刷されます。

- 発表題目、発表者氏名・所属は規定の位置に書いてください。
 1. 発表題目は1枚目の最上段に本文より大きめのフォントを使い書いてください。
 2. 1行空けてその下に、発表者の「会員番号」、「所属」、「氏名」、「ローマ字読み」を書いてください。ローマ字読みは姓、名の順、姓はすべて大文字、名は頭文字だけ大文字、としてください。連名の場合は同じ形式で全員の氏名を書き、登壇者の姓の前に*印を付けてください。
- 図・表・写真などは縮小されても識別できるように、また、モノクロ印刷しても識別できるように、投稿する前にあらかじめテスト印刷して仕上がりを確かめてください。アブストラクトはAdobe社のAcrobat¹などでPDF形式に変換してください。Acrobat Readerでは変換できません。変換したアブストラクト原稿にはabst_name.pdfという名前をつけてください。(nameの部分は発表者等の名前(姓のみ)のローマ字読みを入れてください。例:abst_nakabe.pdf)
- PDF形式に変換する際は、フォントをすべてインクルードするようにして下さい。
- PDF形式に変換したファイルをAdobe社のAcrobat Reader 6.0で印刷し、読めることを確認して下さい。フォントの文字化けが生じる可能性がありますので、できれば、環境の違うパソコンでも仕上がりを確かめてください(お願い)ワープロで作成したファイルはサイズが大きくなりがちで、ファイル転送の際にトラブルが予想されます。できるだけ上

¹Acrobat[®], Reader[®], Adobe[®], Distiller[®]は、Adobeシステムズ社の商標登録です。

記5, 6, 7に従ってPDFファイルをご用意ください)

注意1 アブストラクトのファイル名は「abst_name.pdf」としてください。nameの部分は発表者等の名前(姓のみ)のローマ字読みを入れてください(例:abst_nakabe.pdf)

注意2 図表・写真が多い場合はファイルサイズが大きくなり、途中で転送を拒否される場合もありますので、あらかじめご確認ください。

3.1. TeXの余白の設定

内容を記述する前に余白の設定をおこなうTeXでの余白設定は一通りではないが、たとえばプリアンプルに以下;

%% 上下 3cm, 左右 2cm の余白を定義 %%

```
\paperwidth 597pt
\paperheight 845pt
\hoffset -14.0pt
\voffset 14.5pt
\oddsidemargin 0.0pt
\evensidemargin 0.0pt
\topmargin 0.0pt
\headheight 0.0pt
\headsep 0.0pt
\textheight 671.0pt
\textwidth 480.5pt
\marginparsep 0.0pt
\marginparwidth 0.0pt
\footskip 0.0pt
```

を記述し、これ以外で長さに関する設定を行わなければ、上下3cm, 左右2cmの余白が確保できる。簡単におこなう場合は、スタイルファイル: orsabs.sty を用いるのがよい。スタイルファイルは、

```
\documentclass[twoside,twocolumn,11pt]
{jarticle}
\usepackage[dvips]{graphicx}
\usepackage{latexsym}
\usepackage{orsabs}
```

などとして読み込む。

3.2. WORDの余白設定

内容を記述する前に余白の設定をおこなう。

- [ファイル/ ページ設定] をクリックし、ページ設定ウィンドウを表示させる。

- [余白] タブをクリックし、余白セクションで以下:

上 30 mm 下 30 mm

左 20 mm 右 20 mm

とじしろ 0 mm

と設定する。

- [OK] をクリックし、ページ設定ウィンドウを閉じる。

4. PDFの作成方法

これらの設定を正しくおこなっても、PDFに変換するとき余白が変更される場合があります。これは、正しくAcrobat Distillerを設定していないため起こるようです。

Acrobat Distillerの初期設定はレターサイズであり、A4サイズではありません。これに気づかず、そのままA4サイズのPDFを作成すると、内容が上にずれるような感じを受けます。

Acrobat Distillerの設定をした覚えのない人は、([PDFの作成] Acrobat Distillerを用いて作成)を参照し、正しくAcrobat Distillerを設定してください。

5. PDFの印刷方法

1. PDFを起動し、メニューの[ファイル/印刷]で印刷ウィンドウを開く。
2. [ページの拡大/縮小]を”なし”にする。[自動回転と中央配置]にチェックがついている場合は、チェックをはずす。
これらが付いたままになっていると、余白がずれたり、内容が全体的に縮小されたりします。必ずこの設定を確認してください。
3. [OK] (または [印刷]) をクリックして印刷する。印刷後は、余白の設定などが正しく印刷されていることを確認する。

6. おわりに

このファイルに関するご質問等がありましたら、作成者までお問い合わせ下さい。

参考文献

- [1] 奥村晴彦: [改訂版] L^AT_EX 2_ε美文書作成入門, 技術評論社 (2000).
- [2] 乙部徹己: pL^AT_EX 2_ε for WINDOWS Another Manual, ソフトバンク (1997).